

## 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 ふきのとう	代表者	新庄 祐士	法人・事業所の 特徴	小規模多機能型施設として柔軟な対応を心がけている。自然に囲まれた山家という地域の特性を活かしながら、ゆっくり穏やかな雰囲気の中でご利用者それぞれに合わせた支援が提供できるよう努めている。
事業所名	山家 小規模多機能型居宅介護施設 やまぶき	管理者	出口 長七郎		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1	1	2			1				5

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組・結果	意見	今回の改善計画
A.事業所自己評価の 確認	「約束は守る」「期限を守る」など当たり前のことを意識してやり遂げる。申し送り等しっかり把握しぬげのないよう対応する。 ケアプランを把握しご利用者様それぞれに適切なサポートを行う。 朝礼、昼礼でも重要なことについては周知していく。	提出物の締め切りや決められたことを守ることができた職員は多くなってはいるが、それぞれの責任を果たしているかと言えば果たせていないことが多かった。 ケアプランに関しても未だに保管場所を知らない職員もあり意識の低さを感じられた。 昼礼、朝礼で重要なことは周知できることが増えた。	できていない人へのアプローチが必要。 問題解決のための会議であり、よくできているものは置いておき、テーマを絞って開催されることが必要なのでは？ モチベーションの維持には外部講師(接遇専門など)の刺激も必要と感じます。	「約束は守る」「期限を守る」など当たり前のことを意識してやり遂げる。申し送り等しっかり把握しぬげのないよう対応する。 ケアプランを把握しご利用者様それぞれに適切なサポートを行う。 朝礼、昼礼で確認したことは意識して取り組む。
B.事業所のしつらえ・ 環境	運営推進委員の方々にも定期的に施設見学をしてもらい、第三者のアドバイスもいただきながら、これまで継続しているものを発展させられるようにする。 計画を立て職員全員で取り組めるよう委員会が主体となり取り組む。	今年度もコロナの影響もあり定期的に施設見学を開催することができなかった。 レク委員が中心となり季節に合った作品作りや飾りつけを行い季節を感じてもらうことができた。	施設内の環境、職員のあいさつなど書面上だけではわからない部分があると思われる。 コロナ禍のため確認できず。	運営推進委員の方々にも定期的に施設見学をしてもらい、第三者のアドバイスもいただきながら、これまで継続しているものを発展させられるようにする。 ご利用者にとって過ごしやすい環境づくりに配慮する。
C.事業所と地域のか かわり	やまぶきの広報誌を発行し、地域に対しやまぶきをPRする。 すこやかシニア教室や育成事業など地域とのかかわりの中でやまぶきを知ってもらう。 地域の会議資料など職員に回覧し、内容の報告を行い周知を図る。	年に4回のやまぶき広報誌を自治会連合会を通じ山家地区の各戸に配布することができた。すこやかシニア教室を利用されている方には「楽しみにしている」とおっしゃられる方もいた。 福祉推進協議会の資料など回覧し、何名かは取り組みについて情報を得ている。	職員の方々、コロナ感染予防には注意されお世話になっています。 「わからない」ことが多い項目についての改善が必要。	やまぶきの広報誌の配布は継続する。 広報誌をやまぶきからの提案や発信にも利用し地域とのかかわりを模索する。 地域の会議資料など職員に回覧し、内容の報告を行い周知を図る。
D.地域に出向いて本 人の暮らしを支える 取組み	地域の会議資料など職員に回覧し、内容の報告を行い周知を図る。 山家のサークル活動の情報を得、ご利用者様の参加を模索する。	資料など回覧することで少しずつ山家地区の取り組みを理解する職員が増えてきた。 地域の活動やご家族での計画など希望があれば無理に参加を引き留めたりせず、積極的に参加してもらえよう取り組んだ。上原地区のハロウィンパレードにも参加することができた。	コロナ感染が心配されるので、冬でもあり寒いので出かけにくいのではないかと。 「わからない」が多かったが、コロナ禍のため今年は仕方がない。現状が理解できるような情報を伝達する必要がある。	地域の会議資料など職員に回覧し、内容の報告を行い周知を図る。 山家のサークル活動の情報を得、ご利用者様の参加を模索する。
E.運営推進会議を活 かした取組み	運営推進会議の在り方を確認し、方向性を決めて取り組んでいく。 運営推進会議でのやり取りなど職員に報告し、推進委員の意見も聞きながらやまぶき全体として取り組むことを検討できるようにする。	運営推進会議を利用した取り組みに関してはなかなか取り組めていないのが現状である。	会議を活かした取り組みがどのようなものかわかりづらい。 運営推進委員としての取り組みができなかった。 具体的なテーマをどう立案し実施するか。	運営推進会議の在り方を確認し、方向性を決めて取り組んでいく。 運営推進会議でのやり取りなど職員に報告し、推進委員の意見も聞きながらやまぶき全体として取り組むことを検討できるようにする。
F.事業所の防災・災 害対策	各種災害への対応マニュアルを法人の災害マニュアルと絡めて作成し、マニュアルや想定にのっとった訓練を行う。 地域の防災計画を確認し、やまぶきと地域の協力関係の構築を模索する。	社会福祉法人格への移行に伴い、災害マニュアルなどを作成した。大雨の対応など職員間で確認する作業を行った。 地域との防災訓練は実施できていない。 今年度、停電時の対応の為自家発電機を設置した。	地域との合同訓練を検討してください。 運営推進委員へ訓練実施の報告、立ち合いの実施などを検討する。 消防職員にも立ち会ってもらいより確実な避難の実施につなげる。	避難訓練等委員にも周知して行う。 訓練には消防署にも立ち会ってもらいアドバイスを受け、より確実な避難計画につなげる。 地域の防災計画を確認し、やまぶきと地域の協力関係の構築を模索する。